

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （6 月 5 日報告）について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 17 年 8 月 31 日）では HBs 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に HBs 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりであった。

輸血前 H17.10.22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17.11.13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性／PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18.06.02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

① 当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。

② 29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

（2）29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、28 人が再採血・献血に来場（28 名の HBV-DNA は全て陰性、そのうち 2 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性）。（平成 21 年 7 月 3 日現在、残る 1 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 1 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2月20日報告）について

1 経緯

平成19年2月20日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成18年8月3日に、輸血（赤血球濃厚液合計4単位3本）を受ける。

輸血前の血液検査（平成18年7月11日）ではHBs抗原検査陰性であったが、輸血後の平成18年9月26日に、HBs抗原検査陽性となった。10月24日の悪心、嘔吐、腹痛にて受診、AST1364、ALT1306、肝不全を認める。10月25日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血によるHBVの感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

①当該患者には3人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

②当該製剤と同一供血者から製造された3本の原料血漿は全て確保済み。

（2）3人の供血者について

3人の供血者のうち、2名が再採血・献血に来場（2名のHBV関連検査は全て陰性）。
（平成21年7月3日現在、残る1名の来訪なし。）

（3）供血者個別NATの試験結果

輸血時の供血者3人の供血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者1人の再献血・検査にかかるフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血（濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本）を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前（8月12日）のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み（3本は使用済み）。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み（3本は医療機関供給済み）。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった（平成21年4月21日現在、残る3人のその後の来訪なし）。

(3) 患者検体の調査

- ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者3人のフォローアップを引き続き行う。

平成21年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成21年4月15日報告分から21年6月29日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤24件である。輸血用血液製剤の内訳は、

(1) B型肝炎報告事例：	6
(2) C型肝炎報告事例：	10
(3) HIV感染報告例：	0
(4) その他の感染症報告例：	8
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は3例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は1例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は8例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は2例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は1件。
 - (2) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※症例一覧表において、事前発送資料からの修正・更新点は赤字で表記した。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT) (投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																									
供血者陽性事例																									
3-090004	A-09000042	2009/6/10	2009/6/22	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿-LR	男	60	循環器疾患	B型肝炎	08/12	HBsAg(-) (08/12) HBsAg(-) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(-) HBcAb(-) IgM- HBcAb(-) (08/12)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) (09/06)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/12)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/06)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 12本HBV-DNA(-) 1本HBV-DNA(+) 保管検体陽性の献血者に再来献血はない。		陽性となった当該輸血用血液と同一採血番号の製剤として1本の原料血漿があり、確保済み。	16単位 10単位	7/13(6人はHBV関連検査陰性、1人はHBsAbのみ陽性であり当該献血においても同様であった)	8本の原料血漿、5本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		患者検体と献血者(HBV陽性保管検体)とのHBV塩基配列の相同性について調査予定
陽転事例																									
3-0900027	A-09000025	2009/4/16	2009/5/1	人赤血球濃厚液 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	血液腫瘍	B型肝炎	03/10-12 08/06-12	HBsAg(-) (03/09)	HBsAg(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/04) HBeAg(+) HbeAb(-) (09/04)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (08/06) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) (09/04)	陽性(輸血後)	保管検体7本全部 HBV-DNA(-)			6単位 8単位	2/7(HBV関連検査陰性)	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は1本確保済み。	原料血漿5本は使用済み。新鮮凍結血漿、新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT)(投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									
3-0900028	A-09000026	2009/4/17	2009/5/1	人血小板濃厚液(放射線照射)人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	血液腫瘍	B型肝炎	09/02-03	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/01)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/03)	HBV-DNA(+) (09/01)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (09/04)	陽性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体29本全部HBV-DNA(-)			170 単位 22単位	1/29(HBV関連検査陰性)	25本の原料血漿、4本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。		重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT)(投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
陽転未確認事例																									
3-0900047		2009/6/17		人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿-LR	男	60	循環器疾患 糖尿病	B型肝炎	08/12	HBsAg(-) (08/11)		調査中	調査中	HBV関連検査実施予定	保管検体22本についてHBV-NAT実施予定			32単位 30単位	調査中	調査中	調査中	重篤	調査中		
3-0900048		2009/6/17		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	60	肝・胆・脾腫瘍	B型肝炎	08/12 09/04	HBsAg(-) (08/09)		調査中	調査中	HBV関連検査実施予定	保管検体5本についてHBV-NAT実施予定			6単位 2単位	調査中	調査中	調査中	非重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT)(投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
3-0900049		2009/6/19		人血小板濃厚液(放射線照射)	女	20	血液疾患 腎・泌尿器系疾患 消化器疾患	B型肝炎	08/07-09/05		HBV-DNA(-) HBsAg(-) (08/11) HBsAg(+) HBeAg(+) HBcAb(+) IgM- HBcAb(+) (09/05) HBsAg(+) HBeAg(+) HBcAb(+) IgM- HBcAb(+) (09/06) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(+) IgM- HBcAb(+)	調査中	調査中	HBV関連検査実施予定	保管検体1本についてHBV-DNA(-)		次回献血血液から1本の原料血漿、1本の照射濃厚血小板を製造。原料血漿は確保済み。照射濃厚血小板は医療機関に供給済み(輸血された患者は輸血前よりHbc抗体陽性であり、HBs抗原の陽転化は認められていない。	20単位	-	1本の原料血漿を製造、原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	重篤	未回復	当該 08年9月1日 HBV関連検査適合(避及調査)個別NAT HBV-DNA(-) 次回* 08年9月15日 HBV関連検査適合(避及調査)個別 NAT HBV-DNA(+) 次次回 08年10月25日スクリーニングNAT (HBV)陽性 陽転献血	
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																									
供血者陽性事例																									
(該当例なし)																									
陽転事例																									
3-0900034	A-09000032	2009/5/18	2009/6/1	新鮮凍結人血漿-LR 新鮮凍結人血漿 人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR	男	40	血液腫瘍	C型肝炎	09/04 09/04 09/04 09/04	HCV-Ab(-) (09/04)	HCVコアAg(+) (09/05)	-	HCV-RNA(-) (09/04) HCV-RNA(-) (09/04) HCV-RNA(+) (09/05)	陽性(輸血後)	保管検体29本全部HCV-RNA(-)			2単位 15単位 170単位 24単位	5/29(HCV関連検査陰性)	22本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、1本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT) (投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
3-0900035	A-09000033	2009/5/19	2009/6/2	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	20	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	03/04	HCV-Ab(-) (03/04)	HCV-Ab(+) (09/05)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/05)	陽性(輸血後)	保管検体6本全部 HCV-RNA(-)			8単位	4/6(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿、6本の新鮮凍結血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	重篤	不明		
3-0900039	A-09000037	2009/5/25	2009/6/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	60	調査中	C型肝炎	08/06	HCV-Ab(-) (08/05)	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (09/05)	-	HCV-RNA(-) (08/6) HCV-RNA(+) (09/05)	陽性(輸血後)	保管検体7本についてHCV-RNA(-)			12単位 2単位	5/7(HCV関連検査陰性)	5本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	新鮮凍結血漿-LRは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	調査中		
3-0900040	A-09000038	2009/5/26	2009/6/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	消化器疾患 血液疾患	C型肝炎	08/11-09/02	HCV-Ab(-) (05/06)	HCV-Ab(-) (08/11) HCV-Ab(+) (09/03) HCV-RNA(-) (09/03) HCV-Ab(+) HCVコアAg(-) HCVコアAb(-) (09/04) HCV-RNA(-) (09/05)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (08/11)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) (09/02) (09/03) (09/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体4本についてHCV-RNA(-)			8単位	2/4(HCV関連検査陰性)	4本の原料血漿を製造、原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発避及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT)(投与時 点)	供血者発避及 の場合の供血 者の検査値
3-09000401	A-09000039	2009/6/8	2009/6/22	人赤血球濃厚液-LR	男	80	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	09/01	HCV-Ab(-) (09/01) HCVコア Ag(-) (09/01)	HCV-RNA(+) (09/05)	HCV-RNA(-) (09/01)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (09/06)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-RNA(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造、原料血漿は確保済み。	-	重篤	未回復		
3-09000402	A-09000040	2009/6/8	2009/6/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	生殖器腫瘍	C型肝炎	09/02	HCVコア Ag(-) (09/02) HCVコア Ag(+) (09/05)	HCV-Ab(-) HCVコア Ag(-) (09/02) HCVコア Ag(+) (09/05)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(-) (09/06)	陽性(輸血後)	保管検体2本(全部)HCV-RNA(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿を製造、原料血漿はすべて確保済み。	-	非重篤	未回復		
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									
3-09000301	A-09000028	2009/4/28	2009/5/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	外傷・整形外科的疾患	C型肝炎	08/12	HCVコア Ag(-) (09/03) HCV-Ab(+) (09/04) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) (09/04)	-	HCV-RNA(-) HCV-Ab(+)	陰性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)	人血清アルブミン			4単位	0/2	2本の原料血漿を製造、原料血漿は確保済み。	-	非重篤	不明		
3-09000405	A-09000044	2009/6/15	2009/6/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	40	腎・泌尿器系疾患	C型肝炎	09/02-04	HCV-Ab(-) (09/02) HCVコア Ag(-) (09/02)	HCVコア Ag(+) (09/05) HCV-Ab(-) (09/06)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/02)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/05)	陰性(輸血前)陰性(輸血後)	保管検体8本全部についてHCV-RNA(-)			14単位	1/8(HCV関連検査陰性)	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造、原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及 の場合の供血 者保管検体 (抗原、抗体、 NAT)(投与時 点)	供血者発過及 の場合の供血 者の検査値		
陽転未確認事例																											
3-0900050		2009/6/25		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器疾患	C型肝炎	09/02	HCV-Ab(-)(09/02)	HCVコアAg(+) HCV-Ab(+)(09/06)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体4本についてHCV-NAT実施予定			8単位	0/4	4本の原料血漿を製造、原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	非重篤	調査中				
3-0900051		2009/6/29		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	40	脳疾患	C型肝炎	08/01 09/02	HCV-Ab(-)(07/12)	HCV-Ab(-)(08/02) HCV-Ab(+)(09/02)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体2本についてHCV-NAT実施予定			4単位	調査中	調査中	調査中	重篤	未回復				
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む。)																											
(該当例なし)																											
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																											
3-0900029	A-09000027	2009/4/27	2009/5/8	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	70	血液腫瘍血液疾患	細菌感染	09/04			使用済みバッグによる細菌培養試験を実施、陰性。セグメントチューブによるエンドトキシン検査基準値以下。非溶血性副作用関連検査実施。抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 血液タンパク質欠損検査：欠損なし。							被疑薬：採血8日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より「細菌感染と輸血血液の因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	2単位	-	1本の原料血漿を製造、原料血漿は確保済み。	-	重篤	回復		